

発行者：厚木交響楽団 友の会事務局

「A I D A」 感動のフィナーレ！



アムネリスの祈りの中、黄金の翼を持った巫女に導かれるようにして、ラダメスとアイダの魂は永遠の安らぎの世界へと旅立ちました。

去る7月19、20日に杉並公会堂大ホールにて行われました杉並区民オペラ「アイダ」公演。両日とも1000人弱の客席がほぼ満席という盛況で、このオペラに関わった全ての人達の熱い思いの結集した、第10回記念公演にふさわしい素晴らしい舞台となりました。セットは柱2本のみで、あとは舞台上のスクリーンにエジプトの風景や文物のCGを次々と投影するという斬新な手法！場面転換もスムーズで、舞台に広がりとお興行きをもたらし、気が付けばステージの上にエジプト、アイダの世界が出現していました。↗

「カルメン」のときはスペイン舞踊を舞ったフラメンコ舞踊団の皆さんによる妖しいダンス、それに鍛え抜かれた肢体のプロダンサーと演出のダリオ氏まで加わってのダンスシーンはオペラのアクセントとして、大いに観客の皆さんの注目を集めたことでしょう。柴田先生のメリハリあるタクトに導かれて、私達厚木交響楽団もその成功に大いに貢献できたものと自負しております。5年間に及ぶ、素晴らしいオペラ体験の機会を私達に与えて下さった杉並区民オペラの皆様には、心からお礼を申し上げます。

5年間の振り返っての感想を当団コンサートミストレスの天野克子氏より寄せて頂きました。

オペラ公演5年間の思い出

アイダの最後のハーモニーが、管楽器の美しい響きに包まれ静かに幕が下りた。静かに始まった拍手がだんだん大きくなり、指揮者が指揮台を降り私の右手をそっと握り下手に引き上げていった。

指揮者の最後の行動は私たちオーケストラの者にとって大きな意味を持つ。満面の笑顔、演奏者へのエール、握手等一つ一つの指揮者の振る舞いが、舞台を共にしてきた私たちへのプレゼントとなる。そっと握られた彼の手の温かみは、演奏した全員への“良くやった”というメッセージに思われた。

これで5年間のオペラ公演が終わると思うとこみあげてくるものがあり一抹の淋しさがあつた。がそれと同時に頑張ってきた厚木オケの素晴らしい5年間の成長がとて誇らしく思われた。

思えば5年前、一介のアマチュアオーケストラがオペラの全曲公演を舞台とともに公演するなんてことは、夢のような話であった。実際のオペラ公演をみたことのない仲間も居たかもしれない。ましてピット（オペラの時にオーケストラが演奏するところ）での演奏経験者など数少なかったと思う。私たちはオペラが上映されている

東京の映画館に通い椿姫やカルメン、カヴァレリアルスティカーナなどを観たり、分厚いスコアを購入してCDを何度もきいたりしてオペラに親しんだ。

指揮者の大浦先生（第2回愛の妙薬）にはオペラの時の指揮棒の見方 レスタティーポ（アリアや合唱では無く独白のところ）での弾き方など オペラの初歩を丁寧に教えていただいた。佐藤先生（第3回カルメン 第4回椿姫）には妥協は許されない演奏の厳しさを改めて教えられた。そして最後となったアイダの柴田先生（第1回カヴァレリアとパリアッチ）には終始一貫して音程の正確さを指摘されそしてオペラの醍醐味を味あわせて頂いた。

三人の素晴らしい先生方の教えをしっかりと受け止めた5年間は私たち厚木オケにとって大きな実りであり、これからの私たちの演奏にきっと反映されるだろうと信じている。

厚木交響楽団コンサートミストレス
天野 克子



アイダ 写真館

〈華麗なステージ〉

〈バンダチーム〉

※バンダ：オーケストラなどで本来の編成とは別に、多くは離れた位置で「別働隊」として演奏する小規模のアンサンブルのこと



今回はエキストラ中心のメンバーです。衣装を着けて2幕後半ではステージ後方に登場、その場で演奏しました。

アイダトランペット隊の6人演技の稽古中!? ではありません。



2幕 グランドフィナーレ



3幕 父アモナズロとアイダ



4幕 刑の執行が決まり、引き上げる神官達



4幕終盤
地下牢でのアイダと
ラダメスの再会

〈オケピット〉



開演前のピットの様子
舞台上手側から下手側
に向かって。



▲下手側の人々



2nd. Violin B組

◀こちらは上手側の皆さん



まいく 真郁先生にインタビュー!!!

後編

オペラに続き、10月の定期演奏会にも登場して下さる柴田先生。前回「アイダ」についてのインタビューの際に、余った時間で思わぬ愉快的エピソードもご披露下さいました。先生のお許しを得て、今回はその部分を掲載させていただきます。

●「ビゼット」って・・・誰？

—指揮者になりたいと思われたのは、いつからですか？

小6のときですね。学校で「アルルの女」(ファランドール)を聴いて、CDが欲しくて買いに行っただけですがあの頃輸入版しかなくて、全部横文字で何が何だかわからない。ようやく見つけたのが「BIZET」「ビゼット??」(笑)とにかくそれを家でかけたら、何だか歌が聞こえてきた・・・よく見ると「CARMEN」と書いてあった。間違えて買って来たんですね(笑)。で、オペラも面白いなあと思ったのです。

—楽器は何かやっていらしたのですか？

※仏語では原則語末の子音は発音されない

3歳からエレクトーンをやっていました。弟が3歳からピアノをやりたいと言って、僕が3年生の頃家にピアノが来たんです。僕は遊びがてらだったけど彼はずっと一生懸命で、将来ピアニストになるんじゃないかと家族も思っていましたね。6年生のときに指揮者になりたいとは思っていたんだけど、本当に職業で目指しているのかもわからず、進学の際にせめて音高に行こうとしたんです。そしたら親父が「だめだ!」と。音楽は自分でやるから、学校ではいろんなことを勉強するようにと言われ、普通高の演劇科に行ったのです。ちょっとでも音楽に近いからね。



Georges Bizet
(1838~1875)

●驚愕! ? の実技試験

—で、大学進学は今度こそ音大に？

指揮科を受験してみたいと言ったら、先生に「お前はバカか?」と言われた(笑)。ピアノを弾いてみる!と言われベートーヴェンのソナタなんか弾いたらクスクス笑われ、それじゃ無理だと。たまたまその先生が声楽の先生で、持ってる声が良いし、オペラの指揮をやりたいのなら「声楽」受けといたらと言われた。大学では、入る前から先生達は声楽家ではなくて指揮者になりたいのだとわかっていたのです。だから入試のときに「恐ろしいこと」が起きました!僕の番になって、呼ばれて歌おうとしたら、審査官の先生方がいきなり「弾き語り出来るでしょ?」と。突然のことに、もう緊張しまくりですよ!たどたどしくイタリア歌曲6小節くらいやって・・・笑われました。そのときのバリトンの先生は藤原歌劇団の公演で僕が振ったときにも出演されていたり、今では良い音楽仲間なのですが、いまだに言われます。「あれはほんとうに、爆笑だった!」それでも現役で声楽科に合格しました。入ってから歌の先生達もすごく応援してくれて、ある意味辛かった。45分のレッスンなのに、歌はさっさと15分で終わってしまい帰ろうとしたら、次のグループの伴奏をしろと。5人グループ一人一人、すべて違う曲の伴奏。ピアノは遊びでやっていたのにね。

さて、これから後、先生はどのようにして指揮者への道を歩んで来られたのでしょうか？
この続きは以下の公式プロフィールを御覧下さい



柴田 真郁 Mike SHIBATA, conductor

国立音楽大学を卒業後、合唱指揮やアシスタント指揮者として藤原歌劇団、東京室内歌劇場等で研鑽を積む。

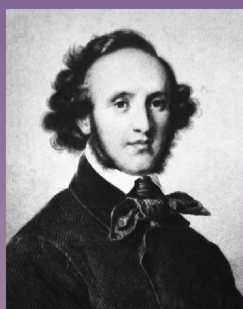
2003年に渡欧、ドイツ各地の劇場、オーケストラで研鑽を積む。その後、ハノーファー・ジルバスター・コンサート(ドイツ)に客演しブラハス室内管弦楽団を指揮。翌年末のベルリン室内管弦楽団にも客演、2年連続でジルバスターコンサートを指揮して大成功を収める。

2005年、リセウ大歌劇場(スペイン・バルセロナ)のアシスタント指揮者オーディションに合格。様々な指揮者、演出家や歌手と公演に携わり、大きな信頼を得た経験は、オペラ指揮者としての礎となっている。2013年には藤原歌劇団「仮面舞踏会」にて本公演デビュー。同演目に関西歌劇団でも好演。

また、管弦楽の分野でも積極的に活動をしている。最近では大阪交響楽団名曲コンサートにて大好評を博す。これまでに、東京フィルハーモニー交響楽団、ザ・カレッジオペラハウス管弦楽団、浜松フィルハーモニー管弦楽団、東京ニューシティ管弦楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団等と共演。しなやかでありながら、ドラマティックな音楽作りには定評がある。

指揮を十束尚宏、ティロ・レーマン、サルヴァドル・マス・コンテの各氏に師事した。
平成22年度(2010年)五島記念文化財団オペラ新人賞受賞。

厚木交響楽団 第71回 定期演奏会



Felix Mendelssohn
(1809~1847)

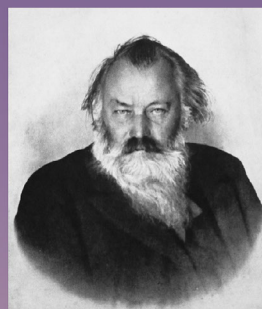
メンデルスゾーン
交響曲第3番イ短調 op.56
“スコットランド”

ブラームス
交響曲第2番ニ長調 op.73

2014.10.5 (日)
厚木市文化会館大ホール

開場 13:30 開演 14:00

全席自由 大人 1,500円 (前売り 1,000円)
中学生以下 無料



Johannes Brahms
(1833~1897)

この秋、久々にメンデルスゾーンとブラームスの交響曲が登場致します。1977年に当団が設立されてから今日まで、この二人の曲を取り上げた演奏会を振り返ってみましょう。

メンデルスゾーン

- 厚木交響楽団ガラコンサート (1990年)
ヴァイオリン協奏曲イ短調
(Vn. 前橋汀子)
- 第34回定期演奏会 (1995年)
序曲「フィンガルの洞窟」
- 第48回定期演奏会 (2002年)
交響曲第3番「スコットランド」



ブラームス

- 第8回定期演奏会 (1982年)
大学祝典序曲 ヴァイオリンとチェロのための協奏曲
交響曲第2番 (Vn. 久保陽子 Vc. 安田謙一郎)
- 第32回定期演奏会 (1994年)
交響曲第1番
- 第36回定期演奏会 (1996年)
交響曲第3番
- 第45回定期演奏会 (2001年)
交響曲第2番
- 第53回定期演奏会 (2006年)
交響曲第4番
- 天野克子 70th アニバーサリーコンサート (2008年)
交響曲第1番



音楽史における時代が「古典派」から「ロマン派」に移った頃、共にドイツのハンブルクで二人は誕生しています。美しく魅力的なメロディーが次から次へと溢れ出る二人の作品は、特に弦楽器奏者には人気が高いようです。指揮者の柴田先生は、「ドイツの音楽は一音一音が重い。あくまで楽譜に忠実に、Simple is the best で臨みたい」とおっしゃっています。じっと耳を傾けてみて下さい。端正な音の連なりの向こうにどんな景色が見えて来ますか？

事務局より

第71回定期演奏会 (10月5日 14時開演) の会員招待券を同封致しました。追加のチケットをご希望の方は、ハガキまたはFAXにて 申込枚数、ご住所、お名前、お電話番号を明記の上、友の会事務局までお申し込み下さい。当日精算 (前売り価格) にて ご用意させていただきます。

〒252-0334

相模原市南区若松 5-10-11 西尾方 厚木交響楽団友の会事務局

FAX 042-712-5824

まで、お願い致します。



その他の演奏会
予定



●あつぎ市民芸術文化祭

12月14日 (日) 13:30 開演 (予定) 厚木市文化会館
モーツァルト「レクイエム」ニ短調 K626 他
指揮/大浦 智弘 合唱/あつぎ市民合唱団

◎厚木交響楽団友の会では、会員を随時大募集しています。お知り合いやご友人で入会希望の方がいらっしゃいましたら、是非ご紹介下さい。